

ドル円は回復に向かうが、しばらくは不安定に

年 初120円台半ばでスタートしたドル円相場は調整局面入りし、月半ばには一時115円台まで円高が進んだ。原油安の悪影響への懸念やギリシャ不安の再発、スイス中銀の突然の政策変更などで、市場がリスク回避的になり、円の買い戻しが起きた。足元では118円台前半に戻しているが、年初の水準にはまだ距離がある。

米国経済回復を背景とする日米金融政策の方向感の違いは崩れておらず、今後の円安ドル高シナリオは揺るがない。問題はドルの上昇を阻んでいるリスク要因の動向だ。影響が大きいのは原油安とギリシャ不安だが、どちらもしばらく引きずりそう。ただし、春頃には需給改善の兆しから原油は下げ止まり、ギリシャ情勢も着地点が見えてくるだろう。従って、しばらくは不安定な情勢が避けられないが、3ヵ月後には年初の水準を回復すると見ている。

ユーロ円相場はECBの量的緩和観測とギリシャ不安、スイスフランの上限撤廃によってユーロ安が進行してきた。最大の焦点であるECBは近々追加の対応に踏み込む可能性が高いが、市場での織り込みもかなり進んでいると見られるため、3ヵ月後のユーロ円は現状比横ばい程度と予想。

長期金利は、日銀の国債買入れによる需給の逼迫に加え、原油安やリスク回避による債券選好を受けて、0.2%付近まで低下している。今後はリスク回避の緩和や利上げ観測に伴う米金利上昇が上昇圧力となるが、日銀の国債買入れによって強力に抑制されるため、今後3ヵ月間は現状比で大差ない水準に留まると予想している。

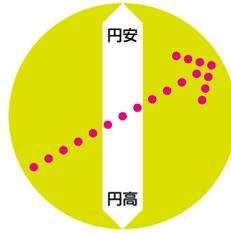


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

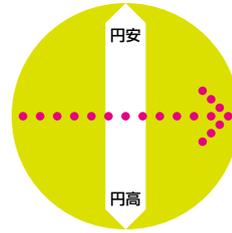


Market Karte

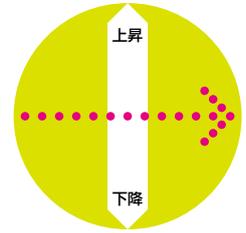
February 2015



ドル円・3ヶ月後の見通し

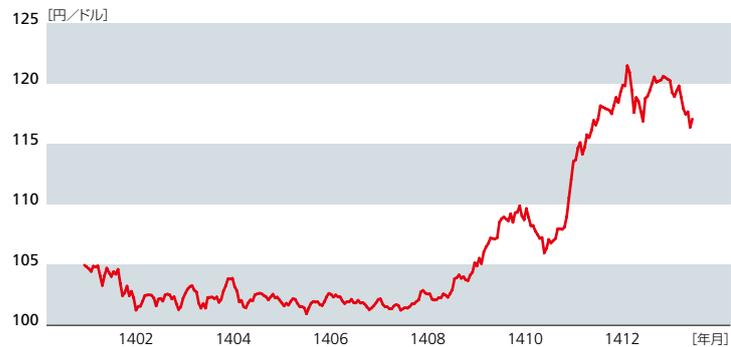


ユーロ円・3ヶ月後の見通し

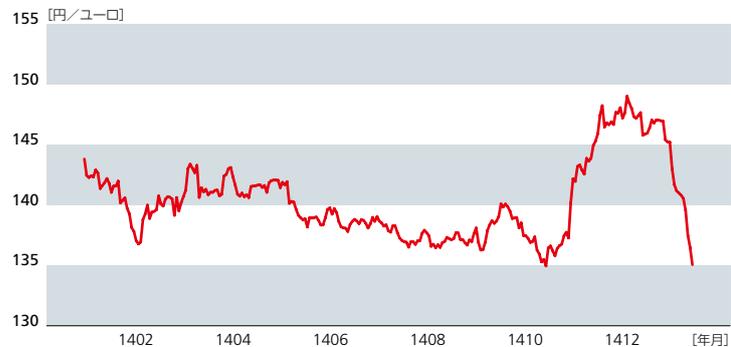


長期金利・3ヶ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

